

平成26年度 しが生物多様性大賞 受賞活動

1. 活動の名称

栗見出在家町 魚のゆりかご水田協議会

2. 活動の概要

目的・目標	取組み目的 ・琵琶湖の生物多様性の保護 ・付加価値の高い魚のゆりかご水田米作り ・世代を超え、農家と非農家、老若男女を問わず地域一体で推進 ・次世代の育成と生きがいのあるまちづくり
活動エリア	東近江市栗見出在家町地先
活動の参加者	栗見出在家町自治会、栗見出在家町子ども会、JAグリーン近江、東近江市立能登川北小学校、積水化学工業(株)、長浜バイオ大学
活動時期	4月～翌年の3月の年間通じて、月1～2回の活動

3. 取組内容

平成18年の滋賀県の魚のゆりかご水田プロジェクトの取組みにより活動を始めた。爾来、世代を超え、農家と非農家、老若男女を問わず地域一体となり「魚のゆりかご水田」プロジェクトを推進し、琵琶湖の生物多様性の保護、付加価値の高い「魚のゆりかご水田米」づくり、そしてこの活動を通じて、住民同士のコミュニケーションを深め、地域を担う次世代の育成と生きがいのあるまち作りを目指して活動に取り組んできた。

農業排水路に魚道施設を設置し、琵琶湖と水田を結び、ニゴロブナをはじめとした魚類が水田に遡上できる施設を作ることによって、近年産卵の場を失った琵琶湖の固有種であるニゴロブナやナマズがこの魚道により遡上し、昭和50年以前のように田んぼで魚が産卵し、ふ化し、稚魚が大きく育って琵琶湖へ帰っていくというエコシステムの再生が実現できた。

近年、琵琶湖の生態系維持の上で大きな問題となっている外来魚(ブラックバス、ブルーギル)には、水路を遡上する習性がないため、このような取組みによって琵琶湖固有種であるニゴロブナ、ナマズ等の在来魚の保全保護・再生に大きく役立っている。

魚の遡上を可能にする魚道の設置には、大人も子どもも参加している。

活動そのものは、年間を通して行っているが、以下には特筆すべき取組みの内容を記した。

【5月 田植え】 オーナー制を取り入れている圃場で、地元の子どもを交えて滋賀県にある企業(積水化学株式会社)の家族、近隣から募集した家族の方々と一緒に交流しながら田植えを行った。

【6月 生き物観察会等】 魚道や田んぼの中で、地域の子ども達と地域外の子ども達と一緒に生き物観察会をおこなった。また、長浜バイオ大学の学生30名が、この観察会に参加するとともに、生物多様性の取組みについての体験を深める学習を行った。

梅雨に入り、排水路から圃場に遡上する魚が見受けられるようになると、地元の皆が関心を持って圃場を観察し、遡上の情報が集落内で共有される。

さらに、魚の遡上は、地元小学校の環境教育の授業にも組み込まれている。

加えて、東近江市との連携により、千葉県船橋市の中学生38名を農家民泊として受け入れ、魚のゆりかご水田の田植実習や、琵琶湖産の葎の葉によるちまき作り等の体験の場の提供を通じた幅広い交流活動と琵琶湖の保全や生物多様性の取組みに関する県外への発信を行った。

【8月 地域一斉掃除】 町内の農道を含めての掃除を、大人と子どもと共におこなうことが、地元地域について世代間で語り合う機会となっている。

【9月 稲刈り】 地域外のオーナーを交えて稲刈りをおこない、収穫の喜びと自然の恵みを味わう体験をしている。

(自然の恵みメニュー:ゆりかご水田米おにぎり、鮎ずし、琵琶湖産エビと地元産大豆との煮物)

【10月 マルシェ】 東近江市主催の「能登川ふれあいフェア」で地域の皆さんとゆりかご米のPRを兼ねて、ゆりかご米を使ってのおにぎりや手作り食品と新米の販売をおこない、特産品のPRを行っている。

【11月 小学校への出前料理教室】 地元で作ったゆりかご米を米粉にして、地元小学校4年生の生徒とともに創作料理に取組み、地産地消の食農教育推進に努めている。

【12月 魚道設置に向けた水路の補修や工事】 来年度の魚道設置に向けて準備作業に着手する。また、現在、積水化学株式会社の樹脂廃材を活用し、魚道の制作を行うべく同社と一体となつての取組みを進めている。



魚道づくり



生き物観察会



小学校料理教室との料理教室

4. 今後の課題・将来像等

・この活動は、地域の小学校と連携することで、教育の一環として位置づけられるが、子どもたちは魚道や田んぼの様子を観察するだけでなく、実際に自分たちの手で田んぼに魚を放流し、その後はその魚を観察することで、何度も自然のなかで生き物とふれあう機会をもうけている。また、米の収穫後は、その米や米粉を使って地元のお母さんたちから料理を教わる調理実習をおこなっている。このような年間を通じた活動を学校と地元で協働を進めるなかで、教育現場の先生方にも活動を認知してもらえる。子どもたちは、地元にある自然環境保全の取り組みや、取り組みの目的、さらには、琵琶湖の魚、水生生物への理解を深めることができている。

・企業との連携では、生き物が共に暮らす米作りである「魚のゆりかご水田」の取り組みが、琵琶湖の自然環境保全や生物多様性を推進するにあたり、いかに重要であるかを企業に理解してもらい、そのうえで水田のオーナーとして集落の米作りに参加してくれている。他方で、集落内の通常の魚道や一筆魚道を作る際に、県内企業から出た廃材を材料として提供してもらい、リサイクルを通じて生物多様性を保全するという面においても協働を進めている。今後とも、協働の輪のさらなる広がりを期していきたい。

・県外の中学生の民泊体験と交流もおこなっており、この活動を通じて、自然環境保護と多様な生き物と共生できる地域づくりの活動として「魚のゆりかご水田」の理解を深めてもらえるように努めている。

・栗見出在家集落は愛知川の最下流にあるので、上流域地域の方々とも交流を持つことも進めている。協働の輪が琵琶湖岸にとどまらず流域にも広がるように情報発信をおこなっている。将来的には上流域地域とも共に活動を展開できるように目標をもっている。

・私たちは「魚のゆりかご水田」の取り組み活動を通じて、地元の主産業である農業をめぐって世代間交流を進め、誰もが住んで良かったと思える誇りと愛着の持てるまちづくりを目指し、また、外部とは教育の現場や異分野の産業との信頼関係を築きながら連携することで、着実に協働の輪を拡げていきたいと考えている。

また、私たちの活動に際し、ご協力して頂ける団体もしくは企業を募集しています。

栗見出在家町魚のゆりかごHP

<http://members.e-omi.ne.jp/kurimi-dezaike/>

5. 連絡先等

連絡先: 魚のゆりかご水田協議会ないし栗見出在家町自治会

TEL 0748-45-0603

メール: kurimi-dezaike@e-omi.ne.jp